

第14回宇宙開発委員会（定例会議）議事次第

1. 日 時 昭和48年6月13日（水）
午後2時～4時

2. 場 所 宇宙開発委員会会議室

3. 議 題

(1) 技術部会報告について

(2) 国連宇宙空間平和利用委員会科学技術
小委員会第10会期報告について

4. 資 料

委14-1 第13回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨

委14-2 宇宙開発委員会技術部会報告

委14-3 国連宇宙空間平和利用委員会科学技術
小委員会第10会期報告

委14-1

第13回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨

1. 日時 昭和48年6月6日
午後2時～4時

2. 場所 宇宙開発委員会会議室

3. 議題 海事衛星専門家パネルについて

4. 資料

委13-1 第12回宇宙開発委員会（定例会議）
議事要旨

委13-2 IMCO第2回海事衛星専門家パネル報告

5. 出席者

宇宙開発委員会

〃

〃

説明者

運輸省電子航法研究所衛星航法部長

関係省庁職員等

運輸省大臣官房参事官

郵政省電波監理局審議官

通産省工技院総務部長

山 県 昌 夫

吉 誠 雅 夫

八 藤 東 禧

木 村 小 一

佐 藤 久 衛
（代理：池田）

高 田 静 雄
（代理：岡井）

塚 本 保 雄
（代理：吉田）

通産省重工業局次長

気象庁総務部長

建設省大臣官房技術参事官

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長 松 元 守 他

北 村 昌 敏
（代理：相馬）

間 孝
（代理：高谷）

宮 崎 明
（代理：田中）

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨について

第12回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨が確認された。

(2) 海事衛星専門家パネルについて

木村小一電子航法研究所衛星航法部長から、資料委13-2「IMCO第2回海事衛星専門家パネル報告」に基づいて説明が行われたのち、以下の質疑応答が行われた。

山県：運輸省はこの問題をどう考えているのか。

木村：まだまとまった考えはない。

山県：海事衛星は仏が中心になつていくのか。

木村：ヨーロッパサイドは皆熱心である。

八藤：いわゆる公衆通信との関係はどうなるか。また、日本ではinvestmentの主体はどこになるのか。

木村：まだ十分検討されていない。わが国としての方針を早急に検討する必要があると考えている。

山県：国際的には、組織問題が先行しているようだが、技術的な検討も必要なのではないか。

木村：現在のところ組織問題が先決だと考えられている。

八藤：いつかは、わが国も海事衛星は必要と判断しているのか。

木村：研究所としては、既存のシステムにどのように衛星システムを組み合わせるべきか苦慮している。

八藤：INTE^しSATとの関係は論議されなかつたのか。

木村：米国は新機種の設立に反対しており、インテルサットの活用も考慮しているとのことであつた。

八藤：航空衛星と海事衛星とを分けようという考えか。

木村：そのとおりである。

山泉：海事衛星については、日本は活用分野が非常に広いので運輸省としても検討を急いでほしい。